

# 2022年6月20日で 西武鉄道 多摩川線は全線開通(武蔵境～是政) 100周年を迎えます！

西武鉄道は12路線、総旅客営業キロ176.6kmで旅客輸送を行っております。その中でも、他の西武線と接続していない路線が1路線だけあります。それが、2022年6月20日(月)に全線開通100周年を迎える西武鉄道 多摩川線です。

## ◇多摩川線とは

西武鉄道 多摩川線は、多摩鉄道の路線として、1917年10月22日に境(現:武蔵境)～北多磨(現:白糸台)駅間が開業しました。その後、1919年6月1日に北多磨(現:白糸台)～常久(現:競艇場前)駅間、**1922年6月20日に常久(現:競艇場前)～是政駅間が開通し、現在の全線8.0kmの路線になりました。**

開通当初は蒸気機関車が走っており、旅客輸送のほか、多摩川の河原付近から砂利などの貨物輸送を行っていました。現在の都立多磨霊園が1923年に開園し、1929年に最寄り駅として多磨墓地前(現:多磨)駅が開業。これにより現在の6駅が揃いました。

現在は、3ドア4両編成の電車がワンマン運行しており、都市近郊路線では珍しい平日・土休日とも同じダイヤで、武蔵境～是政駅間を12分で運行しています。



武蔵境駅



是政駅と101系



多摩川線車内に掲出の停車駅ご案内

## 西武鉄道 多摩川線の特徴

1. 個性豊かな 多摩川線 各駅ご紹介
2. JR 線の線路を使用して車両を輸送？
3. 4 種類のデザインの車両が運行！
4. 「西武多摩川線サイクルトレイン」1 周年！

### 1. 個性豊かな 多摩川線 各駅ご紹介



#### ◇武蔵境駅…JR 線と接続する多摩川線の起点駅

1917 年 10 月 22 日に開業した多摩川線の前身である多摩鉄道の起点駅として設立されました。多摩川線の中で最も乗降人員の多い駅で、西武グループの商業施設であるエミオ武蔵境など商業施設も多く賑わいがあります。



#### ◇新小金井駅…ロケにも多く使われる“物語がうまれる”駅

当社では、鉄道施設でドラマや CM などの撮影を行う「ロケーションサービス」事業を行っており、その中で有人改札だった頃の名残がある「改札付近の撮影」で一番利用されている駅が新小金井駅です。都心から近くてものどかな光景が撮影できる人気の駅です。



#### ◇多磨駅…2020 年にリニューアルし生まれ変わった駅

2020 年 12 月にリニューアルした橋上駅舎・自由通路の供用を開始しました。橋上駅舎・自由通路内の壁面には、多磨駅周辺の魅力の一つである「桜」をモチーフにしたメモリアルアートが施されています。これは、リニューアル工事の際に実施した「多磨駅に桜を描こう！」イベントにて、お客さまご自身に花びらの装飾を作成していただき一緒に作りあげたものです。



#### ◇白糸台駅…多摩川線唯一の車両基地がある拠点駅

多摩鉄道開業時には北多磨駅として開業し、2001 年に白糸台駅に改称されました。多摩川線で使用する電車の車両基地があり、ここで車両の保守・点検が行われています。

また、京王線武蔵野台駅からも近く、利便性の良い駅です。



### ◇競艇場前駅…多摩川ボートレース場の最寄り駅

1919年6月1日に常久駅として開業しましたが、1954年5月に完成した競艇場(当時は府中競艇場)のオープンに合わせ、駅名を競艇場前駅に変更しました。現在使用されていないホームには、本物のボートが飾られており、レース開催日には多くのお客さまで賑わいます。



### ◇是政駅…今年で開業 100 周年を迎えます

多摩鉄道の延長開業により、1922年6月20日に開業し、今年で100周年を迎えます。是政という地名は、この地を開拓した井田是政に因んでつけられたと言われています。多摩川の最寄り駅として、土休日には多くのお客さまで賑わいます。

#### 多摩川線管理所 二戸所長より



2022年6月20日に多摩川線は全線開通100周年を迎えることができました。長年、ご愛顧いただいている多摩川線沿線にお住まいのみなさま、またご利用のみなさまに深く感謝申し上げます。

多摩川線は、西武線の鉄道網から唯一離れている路線で、東京外国語大学や警察大学校、競艇場や競馬場、歴史を忍ばせる掩体壕など様々な施設、史跡が点在するととも魅力ある沿線です。直近では、「サイクルトレイン」の実施など、これまでにない取り組みで、レジャーでも多くの方にご利用いただいております。

この100年、沿線のみなさまと共に、日々歩んでまいりましたが、今後も地域社会の一員として、お客さまの安全・安心を第一に、より愛される多摩川線を目指して、駅係員・乗務員一同、邁進してまいります。

## 2. JR線の線路を經由して車両を輸送！？

多摩川線は、他の西武線と接続していません。白糸台駅に車両基地が併設されていますが、車両の大きな検査や改造などは、池袋線の東飯能～高麗駅間にある武蔵丘車両検修場で実施します。そのため、JR線の線路を經由して車両を運ぶ必要があります。

西武線の車両は、JR線では機関車にけん引され、JR線の新秋津を經由して西武線内に運ばれるため、白糸台車両基地で1日かけて必要な準備を行います。終電車発車後に武蔵境にて、JR線経由で運ばれてきた検査済みの車両と交換する形で、多摩川線の検査車両を機関車と連結し、JR線の新秋津を經由して西武線内に運びます。こうして、一夜のうちに既に検査を終えた車両とこれから検査する車両をそれぞれ輸送します。この作業を甲種輸送と呼びます。

今回、多摩川線全線開通100周年記念として、年に4～5回しか行われない甲種輸送を紹介する動画を作成し、当社のYouTubeチャンネルにアップしました。ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/L-aeDd4qERY>

### 3. 4種類のデザインの車両が運行！

多摩川線では、2017年より多摩川線開業100周年の記念事業として様々なカラーリングが施された、カラフルな101系車両が運行しています。西武グループの鉄道各社を模した、多彩な電車をお楽しみいただける、西武線の中でも珍しい路線です。

ツートンカラー「イエロー×ベージュ」



多摩川線開業 100 周年イベントの際に集まったご要望にお応えし、101 系車両のデビュー当時の塗装色であるツートンカラー「イエロー×ベージュ色」を施した車両です。

伊豆箱根鉄道創業 100 周年  
コラボレーション色電車



多摩川線の開業および伊豆箱根鉄道の創立が 100 周年を迎えるにあたり、コラボレーション企画として西武鉄道 101 系に伊豆箱根鉄道 1300 系と同色を施した車両です。

赤電



多摩川線開業 100 周年イベントの際に集まったご要望にお応えし、西武鉄道で昔活躍していた 701 系のデビュー当時の色である「レッド×ベージュ色」の赤電色(通称:赤電)の復活塗装を施しています。

近江鉄道 100 形「湖風号」カラー電車



多摩川線開業 100 周年および近江鉄道創立 120 周年の節目を迎えたことを記念し、グループ企業コラボレーション企画として運行している、近江鉄道(株)100 形「湖風号」の塗色を施した車両です。

## 4.「西武多摩川線サイクルトレイン」は 2022 年 7 月 1 日で 1 周年を迎えます

西武鉄道では、2021 年 7 月 1 日から 3 ヶ月間、定期運行列車に自転車を折りたたまず、そのまま車内に持ち込める「西武多摩川線サイクルトレイン」の実証実験を行い、同年 10 月 1 日より本実施へと移行しました。

この取り組みは、普段のお買い物やサイクリングなどにおけるお客さまの行動範囲を広げることによる地域交通の利便性の拡充や、自動車に比べて CO2 の排出量が少ない電車と自転車を組み合わせてご利用いただくことによる自然環境・地球環境に配慮した移動手段の選択肢の提供を目的としています。



ホーム乗車待ちイメージ

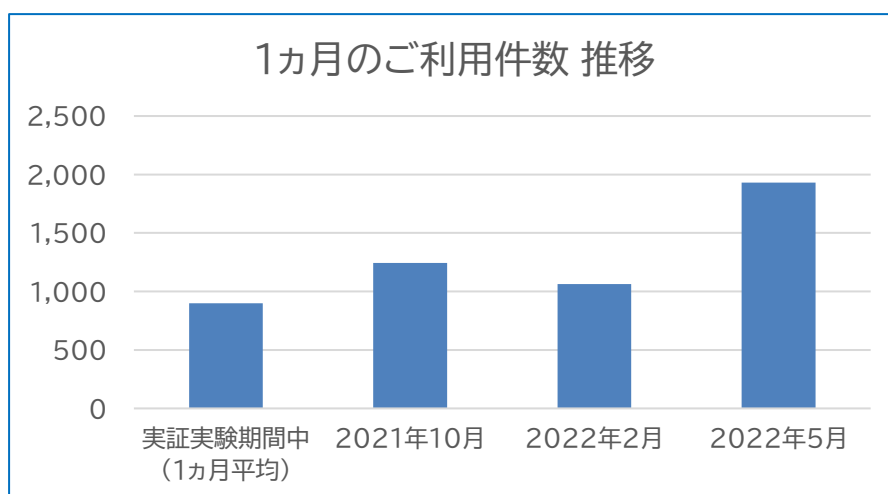


車内利用イメージ

実証実験期間中(3 ヶ月間)より多数のお客さまにご利用いただきながら安全な運用を確立するとともに、期間中に実施したご利用満足度(5 段階)のアンケート調査では、8割を超える方から最も高い評価をいただくことができました。

2021 年 10 月 1 日からの本実施後は、1 ヶ月間のご利用件数は平均 1,000 件(1 日当たり平日約20件、土休日約70件)と多数のお客さまにご利用いただいております。特に土休日のレジャー利用が多くなっています。年齢層も20代から60代以上まで幅広く、サイクルトレインという移動手段がお客さまの生活に定着していることがうかがえます。

また、2022 年 5 月は、ゴールデンウィーク期間中(4月29日～5月8日/平日を除く)のご利用件数は約 900件、1 ヶ月のご利用件数は 1,930 件と、非常に多くのお客さまにご利用いただきました。土休日は、レジャー利用が90%を超えており、約 35%の方が多摩川の最寄りである是政駅を利用しています。



※乗車・降車で1件とカウント

以上